

令和3年度 東京都立八丈高等学校 学校経営報告

東京都立八丈高等学校長
佐藤 俊一

1 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動への取組と自己評価

	取組	成果と今後に向けて
学習指導	<p>目標：カリキュラムマネジメントによる魅力化の創造</p> <p>ア 新学習指導要領のもと、学力の3要素に基づいた指導とルーブリック等の評価を研究・開発し、研究紀要や学習の手引き「学びの羅針盤」を活用・改訂し、生徒に配布、保護者の活用を推進する。</p> <p>イ 習熟度別授業の充実化の他、ITやICT教育機器を活用しデータを可視化して定期考査や模試等による学力の定点観測や分析会等で指導の最適化を図る。</p> <p>ウ 反転学習を含めた予習・授業・復習の学習サイクルを定着させるとともに、自習室の学習環境整備、オンライン学習、eポートフォリオシステムなど、生徒の主体的な学習を支援し、学び方と学習習慣等を定着させる。</p> <p>エ 図書館機能の充実化と、ICT機器等を活用するなどして、情報教育や進路学習を推進する。</p> <p>オ 校内及び小・中学校の授業参観、授業研究を全教員が行い、異校種相互の系統的な授業力の向上を図る。</p> <p>カ ハワイの高校や大学と連携や姉妹校協定を活用したハワイ研修で高度な学び合い・相互交流を推進する。</p>	<p>ア 学力の3要素に基づいた指導と、ルーブリック等の評価については、観点別評価の研究に発展させながら継続的に研究を深めている。「学びの羅針盤」は生徒に配布し、保護者への周知や学力向上のための家庭との連携や募集対策など、有効活用されている。改定と電子化に取り組む。</p> <p>イ 英語、数学での習熟度別授業展開、家庭科での少人数制授業等により、きめ細かく丁寧な指導を実践して個々の到達度に応じた授業展開を行っている。ITやICT教育機器を活用したデータ分析会の具現化を図った。今後は開催回数増と分析を活用した更なる改善を図る。</p> <p>ウ 一人1台タブレットを活用し、反転学習を含めた予習・授業・復習の学習サイクルを取り入れ、課題の提示の仕方や、授業展開の工夫を図ることができた。</p> <p>エ 新型コロナウイルス感染症による休校期間の影響により図書館が開館できなかった時期があったが、一人1台タブレットを活用した情報教育や進路学習は定着化してきた。</p> <p>オ 年3回校内で行われる若手教員による授業研究をはじめ、全教員による授業研究が実施できた。また、先進校視察を実施し、還元研修を3月に3回開催した。</p> <p>カ ハワイ州ワイアケア高校とオンラインによる交流を12月に2年生を対象に、3月に1、2年生を対象に合計2回実施した。今後は、更に生徒主体へ改善を図るとともに、取組の位置付けを5月末日までに整理する。</p>
園芸科・家政科の充実	<p>目標：園芸科、家政科の魅力の充実化と情報発信</p> <p>ア 八高祭、体験授業等で、お弁当レシ</p>	<p>ア 園芸科の生産品の販売（4月、9月）や家政科のお弁当販売（7月、8月）等、関係機関からも高い評価を得た。</p>

	<p>開発、食品製造、野菜、草花の販売等を行い、魅力の発信をする。</p> <p>イ 農業クラブや学校家庭クラブを推進、活性化し、活動成果や魅力を島内・島外に積極的に発信する。</p>	<p>イ 園芸科では、学校ホームページやTwitterを通じて、教育活動や学校農業クラブの活動を広く発信することができた。また、家政科では、「手ぶらでごはんプロジェクト」に取り組み、産業教育振興会広報誌等を通じて、活動成果を広く発信した。</p>
生活指導・健康づくり	<p>目標：生徒の健全育成と心身の健康、体力の向上の推進</p> <p>ア ハワイ研修や生徒交流、オリ・パラ教育により生徒の健全育成と国際理解教育、心身の健康・体力向上を図る。</p> <p>イ 平和学習、人権尊重、自他の生命尊重など、講話や教職員全員による統一指導により更に育成する。</p> <p>ウ SNS など情報モラルの徹底と、生徒が社会的に自立するための資質・能力を育成する。</p> <p>エ 学校全体で感染症の予防と拡大防止に努める。</p>	<p>ア ハワイ州ワイアケア高校とオンラインによる交流を2回実施し、文化や生活様式の異なる人との交流を通して、国際理解教育を推進した。</p> <p>イ 授業にとどまらず、自他の生命尊重に関する取組として、7月に「SOSの出し方」に関する教育も実施した。</p> <p>ウエ 生徒会を中心とした感染症の予防策を実施し、感染拡大防止に努めた。</p>
進路指導	<p>目標：進路実績の向上</p> <p>ア 進路指導部主導で各学年と連携し組織的な進路指導体制のもと、生徒の進路希望を高いレベルで実現する。</p> <p>イ 進路選択に向けた面接指導や講演会、保護者会や保護者との面談等を各学期に実施し、情報共有化する。</p> <p>ウ 進路指導部が中心となり各教科と連携して土曜講習や長期休業期間中の講習、自習体制を確立して組織的、計画的に学力向上を図り進路希望の実現につなげる。</p>	<p>ア 進路指導部主導で、拡大進路部会を開催し、生徒の進路希望の高いレベルでの実現に向けて情報共有等を図った。</p> <p>イ 進路選択に向けた面接指導や講演会、保護者会や保護者との面談を各学期に実施し、情報を共有化するとともに、指導の充実化を図った。</p> <p>ウ 進路指導部と各教科との取組による長期休業期間中の補習、講習、講座について、時期や回数等について、年2回の外部模試と受検結果から評価検証し、さらに、組織的、計画的な学力向上が図れるように改善を図り、進路希望の実現につなげていく。</p>

<p>特別活動等</p>	<p>目標：学校行事や生徒会活動によるリーダー養成</p> <p>ア 地域の社会人や、中学校と連携を図り、競技や発表の実践を通して知識・技能の伸長を図る。</p> <p>イ 学校行事や生徒会活動では、生徒が主役となり生徒自身が企画・運営して達成感と成就感等を経験させる。</p> <p>ウ 読書活動を推進し、国語力や表現力を養わせ、読書意欲の向上と未読率の解消を図るとともに、書評合戦等に積極的に参加する。</p>	<p>ア 新型コロナウイルスの影響で、地域の中学生や社会人との連携を行う機会が少なかった。状況が改善したら、連携と実践を推進する。</p> <p>イ 感染症対策などを通じて活動の充実化に向けての運営が実施できた。</p> <p>ウ 読書活動を推進し、国語力や表現力を養わせ、読書意欲の向上を図るとともに、書評合戦に参加した。</p>
<p>家庭・地域との連携 協力・交流活動、学校 広報活動</p>	<p>家庭、地域との密な連携と、戦略的な情報発信</p> <p>ア マスメディアに本校の魅力ある取組の情報を提供し、地域と連帯した広報活動を推進する。</p> <p>イ 学校運営連絡協議会等において、地域からの学校理解、学校評価をいただき教育への支援を定着させる。</p> <p>ウ 学校施設を積極的に開放し、地域のスポーツ活動・文化活動に参画し、生徒の主体的な参加を促進する</p>	<p>ア 学校設定教科「八文学」、家政科「手ぶらでお弁当プロジェクト」、園芸科「生産品販売」など探究的な学びを行い、産業教育振興会広報誌への掲載により情報を発信することができた。</p> <p>イ 昨年度から全日制、定時制合同で学校運営連絡協議会を実施し、町役場をはじめとする多方面との情報共有を行うことができた。第3回は、感染症防止の観点から紙面開催とした。</p> <p>ウ 緊急事態宣言により、学校施設の開放を実施できなかった。</p>
<p>学校経営・組織体制</p>	<p>目標：学校経営参画の推進と組織の活性化</p> <p>ア 八丈町と緊密に連携した危機管理体制を常に見直し、マニュアル化して点検を行い、学校課題等の校内研修を意図的に実施する。</p> <p>イ 企画調整会議や教科主任会議を中心に学校経営を行い、組織的な学校運営、学校経営を行う。</p> <p>ウ 都立青島特別支援学校分教室の教育活動を支援する。</p>	<p>アウ新型コロナウイルス感染症の広まりや、生活安全や災害安全など、学校危機管理体制の構築を行うとともに、全・定・青島特別支援学校八丈分教室を統合した学校危機管理計画を作成した。</p> <p>イ 企画調整会議と教科主任会議を二本の柱とした学校経営を行い、学校評価アンケートに記された意見からの課題抽出及び成果検証や、ライフ・ワーク・バランスに向けた取組等、改善提案の具現化を進め、組織的な学校運営・経営を行うことができた。一方、サービス事故防止研修を年3回実施するなどして、教職員のサービスの厳正に関する周知や研修等を徹底したが、必ずしも未然防止が十分とはいえなかった。今後は、副校長、分掌主任等による業務の確認体制を強化して、校長のリーダーシップの下、都民から信頼される八丈高校を目指して学校経営を実践する。</p>

(2) 重点目標達成率と次年度以降の課題と対応策

◇ 学習指導

- 授業の満足度（肯定的評価）数値目標 令和3年度目標 **85%**（未達成）

平成30年度実績	平成31年度	令和2年度	令和3年度
87%	85%	80%	81%
(次年度への課題) 全ての教科に於いて、生徒一人1台タブレットを活用した授業を実施する。			

◇ 生活指導

- 生徒遅刻 数値目標 令和3年度目標 遅刻15回以上の生徒 **3.4%以下**（達成）

平成30年度実績	平成31年度	令和2年度	令和3年度
9.5%	8%	3.4%	2.3%
(次年度への課題) SCを活用した生徒や保護者への相談体制の見直しを図る。			

- 部活動加入率 数値目標 令和3年度目標 **80%**（達成）

平成30年度実績	平成31年度	令和2年度	令和3年度
67%	77%	77%	80%
(次年度への課題) 外部指導員の活用と適正規模化により指導体制の強化を図り魅力を向上させる。			

◇ 進路指導

- 卒業時の進路決定率 数値目標 令和3年度目標 **100%**（未達成）

平成30年度実績	平成31年度	令和2年度	令和3年度
100%	94%	98%	91%
(次年度への課題) 面接指導の改善を図るとともに進路指導体制の再構築を図る。			

◇ その他の教育活動における 数値目標

- 中途退学者（進路変更者） 令和3年度目標 **0名**（未達成）

平成30年度実績	平成31年度	令和2年度	令和3年度
3名	6名	3名	1名
(次年度への課題) 青鳥特別支援学校分教室との協働により、特別な支援を要する生徒への丁寧な指導を強化する。また、転居に伴う転学等の相談体制について再構築する。			

- 図書の貸し出し冊数 令和3年度目標 **一人10冊以上**（未達成）

平成30年度実績	平成31年度	令和2年度	令和3年度
8.6冊	10.8冊	6.0冊	4.0冊
(次年度への課題) 生徒一人1台タブレットを活用したPR活動を織り交ぜて、引き続き、一人あたり10冊以上の読書を目標とする。			

- 授業公開の保護者及び地域住民の参加者数 令和3年度目標 **100名以上**（未達成）

平成30年度実績	平成31年度	令和2年度	令和3年度
122名	110名	152名	88名
(次年度への課題) オンデマンド配信やオンライン開催等の工夫を凝らして感染症対策をしながら開催する。			